

令和6年度一般選抜（B日程）における小論文出題意図及び解答例

国際経済学部

1. 小論文問題作成の基本的な考え方について

国際経済学部では、アドミッション・ポリシーで大学入学までに身に付けておくことが望ましい知識・能力・態度として挙げた高等学校における学力の三要素、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」に関して学力評価を行うこととしています。小論文試験は、このうち主に「思考力・判断力・表現力」として、経済社会のさまざまな動きや変化に対する探究心を有し、自らの考えを論理的に表現し、わかりやすく伝えることができることを評価することを目的としています。

2. 試験問題の内容および意図について

（内容）

本試験にて提示される問題文は、観光庁「令和2年版観光白書」（2020）を本文に、問いの中で引用している表は観光白書と観光庁観光戦略課観光統計調査室「訪日外国人旅行者（観光・レジャー目的）の訪日回数と消費動向の関係について」の2つである。2つの出典は同一の訪日外国人旅行者消費動向調査（2019）のデータが基礎となっているので、表中の各数値には一貫性がある。

問題文では、訪日外国人旅行者の大部分を占める東アジア4か国・地域からの旅行者の、訪日リピート回数別にみた国内旅行における地理的広がりについて、国内を2つに分けた「都市部と地方部」によって把握する。また、問題文には4か国の旅行者の国内旅行の地理的広がりの特徴が述べられ、中国人旅行者は訪問意向のある地域とのギャップがあることが明らかにされている。訪日回数ごとの観光地の地理的広がりについて、問題文と表の数値と組み合わせで説明する能力を、小論文形式で問うている。

（意図）

問1

表1の表側「国・訪問回数」ごとに2つの観光指標（1人あたり旅行支出と平均泊数）の数値パターンを把握して文章化する学力を問うている。

- 1) 4か国・地域に共通して観察できる傾向とは、4か国・地域の数値に一貫して観察できるパターンのことである。ここでは訪問回数ごとの1人あたり旅行支出のパターンを簡潔に述べる。
- 2) 韓国とそれ以外の3か国・地域の違いについて簡潔に述べる。1人あたり旅行支出と平均泊数ともに、他の3か国よりも小さいという特徴を記述する。

問2

訪問率と延べ訪問率という受験生にとって初見に近い観光統計指標の基本的理解を問うている。各都道府県の訪問率は訪問者数の実数を用い、地域の延べ訪問率は地域を構成する都道府県の延べ訪問人数を考えるので、訪問率の単純な総和で求まる。地域内で複数の都道府県を訪問する旅行者が増えればそれだけ延べ訪問率は増える。表2は仮想的なA国による数値例であるが、訪日回数1回目よりも2回目以上の旅行者の方が、相対的に都市部のより多くの都道府県を訪問していることを例示している。(A)から(D)は問題文の定義に沿って計算するだけである。

問3

- 1) 表3の台湾と韓国に関して、訪日回数とともに変化する延べ訪問率のパターンを都市部と地方部それぞれで読み取り、共通点と相違点を明記させる問題である。
- 2) 表1、3と問題文という複数の情報源を組み合わせ、中国からの旅行者の地方への誘致について自分の考えを論述する能力を問うている。表1では、中国は1人当たり旅行支出が4つの国・地域の中で最大であること、平均泊数が他3か国・地域と比べても大きいという特徴がある。この特徴から、地方にとって中国人旅行者は他と比べ経済的に大きな貢献をもたらすと考えられる。表3では、他の3か国・地域と比べて中国からの旅行者は訪日回数が増えると、都市部と地方部の両方で延べ訪問率が減少するという顕著な特徴がある。他の3か国・地域に比べて訪問する都道府県の広がりはずいぶん狭くなっていく傾向にある。加えて問題文最終段落にあるように、別の調査によると中国は訪日回数が増加しても再訪する地域は限られているが、「訪問経験のない地方」への訪問意向が、地方の延べ訪問率が中国よりも大きい台湾や香港以上に高い結果となっている。これらの読み取り作業により、「中国人旅行者の地方の訪問意欲は潜在的に香港や台湾よりも高いにもかかわらず、表3の地方部のデータを見ると、現実には地方部での地域的広がり小さい」という”2019年時点での現状認識”が可能になる。中国人旅行者の地方への誘致を増やすという目的から、この現状認識を踏まえた課題を自由に解答すればよい。

(参考解答例)

問1 解答例(下線部のような指摘が採点時の加点要素となる)

- 1) 訪問回数が増えると、1人あたり旅行支出は増える傾向にある。
- 2) 韓国は他の3か国・地域に比べて、1人あたり旅行支出と平均泊数ともに少ない。

問2 解答例

- (A) 16.0
- (B) 331.3
- (C) 72
- (D) 80.0

問3 解答例(下線部のような指摘が採点時の加点要素となる)

1) 訪日回数が増えると、地方部における訪問地の広がりや台湾と韓国ともに増えることが共通点で、都市部における訪問地の広がりや、台湾は増えるが韓国は減少することが相違点である。(84字)

2) 以下の事項それぞれが論述で言及されていれば加点するという、部分点加算方式をとる。

- 表1より、中国からの旅行者は、他3か国・地域と比べて全ての訪問回数で最も多くの旅行支出がある
- 表1より、中国からの旅行者は、他3か国・地域と比べて全ての訪問回数平均泊数も概して長い
- 以上より、中国人旅行者を地方部へ誘致することによって、地方へより多くの経済貢献を期待できるというメリットがある
- 問題文によれば、中国人旅行者は訪日回数が増加するにつれ「訪問経験のない地方」への訪問意向が台湾や香港以上に高い
- 表3より、地方部における訪問地域の広がりが訪日回数の増加によって減少している
- 特に最も大きな旅行支出がある中国人訪日リピーターがより多くの地方部を訪問できるような取組が地方の課題であると考えられる。